

佳作

つゆひ

福島県二本松市立杉田小学校二年 永田 心祈

わたしのいえの目の前には、さくらの木がありません。わたしのひいおばあちゃんが子どものころにうえたそうです。わたしがいますんでいるいえがたつよりも前だそうです。まい年四月にまん丸のポンポンのようなさくらが、うすいピンク色でとってもかわいいです。いえのリビングから見えるので、いつでもお花見です。

でも、きよ年の夏かあきくらいから、さくらの木が、なんだかげん気がなくなってきました。かれ木みたいになってしまいました。

ひいおばあちゃんは

「さくらの木、びょう気になっちゃったの。」
と言っていました。

さくらの木は、いえの前にあるので、車がおるときにさくらのえだにさわりそうになるので、じい

ちゃんがたくさんのえだをきってしまった。

「そこからはいきんが入って、さくらの木はびょうきになっちゃったのかな。」

とはなしてくれました。

今年の四月はさくらの花がさきませんでした。ざんねんでした。そしてとうとう、ねもとからきるところになりました。

さくらの木をきる前に、みんなできねんしゃしんをとりました。それから、はじめて木のぼりをしました。木にさわってみると、かたくて、ザラザラしていて、のぼろうとすると、手がいたかったです。わたしといもうとは、少しだけしかのぼれませんでした。

ママがさくらの木に手をあてて

「いままで、見まもっていてくれて、ありがとう。」
といました。ママは、このさくらが大すきだったんだなとおもいました。わたしは、このさくらをきるのが、もっとさびしくなりました。ママを見ていたら、なみだが出てきました。

いままであったさくらの木はなくなってしまったけど、あたらしいさくらのなえを、にわのべつなばしよにうえました。まだとってもちいさいけれど、

こんどは、わたしといっしょに大きくなろうね。